

障害のある人となない人の 双方向のコミュニケーションを大切に —平成28年度視覚障害者社会教育指導者研修会（南丹会場）—



オープニングでは別院中の全校生徒がギターと琴の演奏を披露



来賓の田中亀岡市教育長の祝辞

秋が深まりつつある11月のはじめ、今年度も視覚障害者社会教育指導者研修会（南丹会場）を開催しました。

視覚障害者の方、ガイドヘルパー、ボランティアスタッフ等約50名のみなさんが参加する中、今年度は亀岡市立別院中学校において、講演や中学生との意見交流、運動体験などを行いました。

研修1 講演「誰もが楽しめるユニバーサル・ミュージアム —触れる・聴く・心で感じる—」



講師 国立民族学博物館 准教授 廣瀬 浩二郎 さん

中学生も参加する中、廣瀬浩二郎さんを講師としてお招きし、御講演いただきました。

御自身も視覚障害者としての立場から、視覚に頼らず、触ったり聴いたり感じたりすることで初めて分かることや、障害のある人となない人が双方向でコミュニケーションを図ることの大切さについて、お話くださいました。



研修2 生徒との意見交流 テーマ「障害のある人もない人も安心して楽しく過ごすために」



意見交流では、まず、生徒から自分の経験や学習したことをもとに、障害のある人に自分ができることや、障害の有無にかかわらずみんなにやさしい町づくりについての意見が発表されました。

参加者からは「中学生が障害者理解についてしっかり勉強していて、とても頼もしかった」「こちらからアドバイスなどはあまりできなかったが、生徒ががんばって意見を言ってくれてうれしかった」等の感想がありました。

研修3 運動体験 テーマ「いつでもどこでもできる運動を体験しよう —健康寿命を伸ばすコツ—」



講師 健康体力づくりの会 理事長 山根 光子 さん

午後からの研修は、講師の山根光子さんの巧みで楽しい話術に惹きつけられながら、イスに座ってできる運動や、頭と身体を同時に使って行う運動を体験し、会場は終始和やかな雰囲気が進められました。参加者からは「楽しかった。家でもすぐ実践したい」等の感想がありました。

